

特別寄稿

朝鮮高校無償化除外は民族差別ではない！
日本国の当然の主権行使である

「朝鮮学校」は金父子の「忠実な戦士」を養成する訓練場

元朝鮮総連・朝鮮高校教師 申 相 一

私は、数年前まで朝鮮総連が経営する「朝鮮学校」の教師であった。日本政府は、朝鮮総連の運営する「朝鮮高校」への授業料無償化を適用すべきではない。

私の話したことを一言で語るならば、総連の「学校教育」は決して民族教育ではない。それは、金日成・金正日父子の「忠実な戦士」を養成する「学校」だということである。

朝鮮総連中央の一部幹部たちは、こんな事実を知っているのだろうか？ それとも知らないふりをしているのだろうか？

いま、総連の現職幹部たちや元活動家、そして心ある総連傘下の同胞たちのなかで、さる三月、橋下大阪府知

事が大阪の朝鮮学校に出している外国人学校振興補助金の見直しを述べ、「民族差別だとの声もあるが、朝鮮民族が悪いのではない。北朝鮮という不法国家が問題だ。それはドイツ民族とナチスの関係と同じだ」。知事はまた、「朝鮮学校が、不法国家の北朝鮮と結びついている朝鮮総連と関係があるなら金は投入できない」と表明した。総連中央は、この「ナチス発言」が同胞たちのなかでどのように受けとめられているのかを知っているのだろうか。

その後、大きな声では話さないが、下部の幹部や保護者たちのなかで聞こえてくる本音は、「知事が本当のことを話してくれた。胸がスーッとする思いだ」との声で

あった。

子どもを朝鮮学校に通わせながらも、心ある保護者たちは「総連教育」の実態を見通しているのである。

さる三月の橋下知事の大阪朝高訪問は、総連にとっての一大事であったようだ。なぜならば、関西大学の李英和先生が暴いたように、「偉大なる」金正日將軍様から「無償化のお金を獲得せよ！」との「至上命令」が下達されていた訳だから一歩も後に引けないことだったのだ。

ほとんど知らされていない事実だが、なんと大阪の朝鮮学校は十年ほど前から、年間一億九〇〇〇万円もの支援金を大阪府からもらっていたとのことである。それは大阪十数校の朝鮮学校の年間運営費のほぼ四〇％にあたる大金だと言われている。

すると将来とれるかどうかかわからない「高校無償化の金」もさることながら、現にもらっている一億九〇〇〇万円は、どんなことがあっても「死守」すべき最優先課題となるらしい。

学校関係者はいうまでもなく、総連中央と大阪本部は、知事の質問に対処するための「台本」まで作成し、暗記までしての面談（談判）となったが、知事の言は、①朝鮮総連との縁を断て、②金日成と金正目の肖像画をはず

「教室の金親子の肖像画をはずせ」といふとは

さて、総連の学校、いや日本にある金正日の学校では何が教えられているのか？

私は日本の大学を出て一九六〇年代に総連の学校の教師になった。そして、中級課程と高級課程（高校）の教師であった。いろんなことが自責の念とともに思い出される。しかし、ここでは総連教育の内容、その実態なるものを手短かに話したいと思う。

私が教師になりたてのころは、子供たちを教えるよりも子どもたちとともに自らの民族的な自覚を高めた時期でもあった。しばらくすると李舜臣將軍や乙支文徳將軍の肖像画が、学校から下ろされた。そして金日成とその一族の「歴史」を子どもたちに教えるようになった。

総連第八次大会（一九六七年）で金日成を絶対の神として崇めるようになった決定は、朝鮮労働党第四期一五次中央委員会の決定に従ったものであった。こうして学校教育の場も金日成絶対化の場と化していったのである。子供たちの日課は金日成を讃える歌から始まり、金日成の幼いころの歴史の暗唱、肖像画を早朝登校して磨き

せ、でないお金は出せないというものであった。

朝鮮学校が、総連と関係を断つことはできない相談である。

朝鮮学校教師の人事権は総連が握っている。いや金正日が握っている。高校の校長は総連中央だけでは決めることはできない「総連の大物幹部」なのだ。高級学校の校長は総連の中央委員であり、北から見ると「信じるべき教育革命家」である。

知事と対面した大阪朝高の校長・金淳喆は、総連中央から派遣されてきた人であるし、この四月には総連中央の教育局長として戻っている。また、理事長の辛正学は、近畿と北陸地方の総連県本部の委員長を歴任した「筋金入りの」総連幹部であり、北の工作員侵入や日本人拉致に関連する石川県委員長でもあったため、黒い疑惑のつきまとう人だとうわさされる人物である。

総連は、今年の初めにもった中央委員会第二期五次会議で、「…民族教育事業を活動の重要な柱、愛国愛族運動の第一の課題として捉え組織的な力量を傾けなければならぬ」としている。学校は即総連であり、総連はまた学校である。縁を切ることなど、はなからできない相談である。

清めることを強要する教育になっていった。この度数は学年があがるほどに高められた。すべての学校にまるで神殿を思わせるような「金日成元帥の革命歴史研究室」が設けられた。金日成の革命歴史科目は、初級学校から大学まで必須科目であり、偶像化教育はこれでもかこれでもかと教え込まれた。

年配の人たちは、日本帝国主義時代のあの異常なまでの天皇崇拜のことを想像してもらえば手っ取り早い。

だから唯一の神である金日成の権威を卑下、毀損することは許されない。

大方の人びとは、こんな前近代的な話がこの日本で行われているのだろうかと思議に思うだろうが、これはまぎれもない事実であり、いままも巧妙に化粧された形で日々繰り返されている思想教育の全容である。

「党の唯一指導体系の確立」―要は、金日成を神として崇め絶対化・神格化するために、学校の教員たちは、延々と続く思想総括（自己批判、相互批判）に組み込まれていった。朝鮮大学では自殺者が出るほどのおぞましい総括（リンチ）が続いたりした。

朝鮮大学はいうに及ばず、朝鮮高校では、朝鮮革命と総連の核心分子育成のための特別カリキュラム（熱誠班

と言う名の秘密に満ちた組織）が生まれ、朝鮮青年同盟から派遣された指導員（表では教師）が、これを直接指導した。先鋭的な特別思想教育と空手の猛訓練で総連の「尖兵」を養成していった。

そこには、総連幹部の子弟と一部「出身成分」のよい優秀な生徒が選ばれた。そのなかから朝鮮大学へ進む生徒は、特別給費生（特待生）となり後に総連幹部の中樞を構築していった。

このように養成された熱誠分子のなかから、少なくとも者が北の対南工作要員、または補助工作員となり、韓国に潜り込んで破壊工作をしたり日本人拉致に直接手をかしたりした。

また、一九七〇年代初め、総連の権力闘争に敗れ北に召還された悪名高い金炳植副議長の「フクロウ部隊」にくみこまれ、青春を棒にふった若者たちが多くいた。この部隊は、南朝鮮革命を遂行するための非公然組織で金副議長が総責任者であった。その名のうちに闇のなかで秘密工作と陰謀を遂行する「部隊」であった。私の教え子のなかにも「フクロウ部隊」にピックアップされ、生死がわからなくなったままの子がいる。その後、自殺した子もいる。いまだ親元に戻らないでいる子は、北に

実に簡単明瞭、総連の会員同胞に聞いてみることである。「ウリハッキョ（朝鮮学校）はつまるところ、金父子崇拜の思想教育をしていますね」と。誰もが否定しないことだろう。

「金がもらえるならなんでもする」

いつまでなりさがった朝総連

数年前、一部の総連幹部と教育関係者のなかから、総連に乗っ取られた民族教育を同胞のための真の自主的民族教育に取り戻そうとするたたかいが起こったことがあった。

先日、名古屋や大阪の心ある保護者のなかから、この機会を逃さないで総連から民族教育を取り戻そうではないかとの動きが出てきたと言う話を耳にした。

しかし、身近にいる友人たちは、「もうそんな考えをもつ保護者などほとんどいないのではないか。運動へとは発展しないだろう」と言うのであった。

後で述べようと思うが、言ってみればそれもそうである。いまだ総連に残っている在日同胞や学父母たちは、北朝鮮や総連となんらかの利害関係のある人たちだけで

召還されたか、この日本で「特殊工作員」として、または韓国に潜り込んで暗躍しているのであろう。

これだけを見ても、北とそれに続く総連は、まさしくナチスであり、破壊集団であり、暴力団以外のなにものでもない。

たしかに祖国光復（編集部注：一九四五年八月十五日の日本の敗戦と朝鮮の解放）後、在日同胞が立ち上げた民族教育は、同胞子弟に民族的な矜持と自覚を呼び起こす誇らしい学び舎であった。ゆえに多くの同胞の支持を受けた。しかし、総連が金親子の唯一指導体系下にくみし、その下僕（下手人）と化したところからは、金父子の忠実な戦士を養成する学校になり下がったのである。

朝日新聞は、今年の二月二十四日の社説でこう書いている。「：朝鮮総連のもとで北朝鮮の影響を強く受け、厳格な思想教育が強いられる時期もあった。だが、世代交代が進む中、教育内容は大きく変わった。：かつては全校の教室に金日成、金正日父子の肖像画があったが、親たちの要望で小・中課程の教室からははずされていく」社説の題目は「朝鮮学校除外はおかしい」であり、朝鮮学校への無償化適用を主張している。朝日の社説様、あなたこそがおかしいではありませんか？

ある。朝鮮学校の生徒たちのほとんどは、一般同胞の子弟たちよりも総連幹部・組織関係者の子弟たちだという厳然たる事実を見逃してはならない。

金正日がわめき、総連中央の許宗萬責任副議長がハッパをかけても生徒の数は減るばかりである。生徒数が増えないのは、一般の同胞に見放されたと言うことだが、それとともに幹部の数が減ったことである。そのうえに現職の幹部や教員たちの多くが、子どもを「朝鮮学校」の上の学校へ進学させず日本学校に転校させているからである。まさに身内に足をすくわれているのだ。総連中央は、まず幹部や教員がどれだけ自分の子どもを日本学校に転校させているのか。その統計から上げてみることではなからうか。

私は総連にいたとき、よくこんな話を聞いた。「総連は敵地で戦う部隊だから、スイカにならなくてはならない。外側は青くていい。中身だけが真っ赤であれば」と金日成がたびたび「教えた」と言うのだ。

RENKの李英和先生は、去る三月一日の記者会見で朝鮮高校が民族教育を隠れ蓑にして、本当は北朝鮮の公民教育・金日成崇拜教育を行っている指摘し、高校三年生の「現代朝鮮史」（二六一ページ）は、金父子の写

真が二九回使われ、二人が言及されている箇所は、一年
〜三年生用では計三冊で三一一回もあるとした。

そして、このような「教育」に日本政府が無償化を適
用すべきではない。どうしてもというならば金は直接保
護者にあたえ、この機会にほんとうの民族教育を取り戻
すべきだと主張した。

続いて四月十五日、ジャーナリストの萩原遼氏が、こ
の教科書を翻訳出版した。

さつそく取り寄せ、かつての同僚・T氏と同時に読み
あつてみた。

萩原氏を含む九人の朝鮮問題の研究者たちは、翻訳書
の前書きで次のように記している。

○「内容に虚偽が多い。たとえば朝鮮戦争は南北どち
ら側が起こしたか、についてはおびただしい証拠や
文献によっていまでは北の主導による南進であった
ことが国際的常識になっている。にもかかわらず、ア
メリカと韓国による北朝鮮への侵略戦争だと教えて
いる。虚偽はこれだけではない。一九六〇年代の婦
国事業についても正反対のことを教えている」

○「朝鮮高校の卒業生のなかから日本人拉致や韓国で
の破壊活動に従事する者が少なからず生まれている

返事にたいして老活動家や元活動家の多くから意見がで
た。「あの返事はけしからん。首領さまと儒教を同格に
するとは何事だ。あいつらは何様だ」と。

数年前だったら間違いなく首が飛んでいたはずだが、
なんとこの質問を想定した上で、脚本を総連中央が事前
に書いていたとのことである。総連中央は苦しまぎれの
方便として儒教の国云々をもち出したのであろうか。

いつから総連は、金だけ獲れるならなりふりかまわず
「親分の権威」まで投げ捨てるようになったのだろうか。
以前のように同胞商工人や保護者たちがカンパも出し
てくれない、そこへ生徒の数は減少の坂道を転がりはじ
めて久しい。

だから、金さえ獲れるなら肖像画はいても容易く下ろ
すだろう。すでは初・中級学校は下ろしているのだけか
ら、説明責任も十分につくと言うものである。

韓国籍生徒の数は秘密事項であつたはずだが、

それを公表してまで

総連はここまでなりさがつた。なりふりかまわず「無
償化」に執着している。朝鮮学校では生徒たちの国籍、正

ことも、こうした教育と無関係ではない。このよう
な機関に日本の公費をつぎ込むことは犯罪に手を貸
すことになる」

○「われわれの立場と行動は、朝鮮高校生を差別する
ものではない。真実と平和を愛する子どもを育てる
という普遍的な理念から出発するものである」

このように、萩原氏は「朝鮮学校の教育が歴史を歪曲
し、反日反米などの政治の道具にしていることは明白だ」
ときびしく反論している。

近ごろは、友人との出会いやいろんなグループでの呑
み会などがあるたびに、私は言う。「まず、あの教科書を
読んでほしい。そして討論しよう」と。

総連から離れたが、いまだ総連の会合に顔をだして
いるある友人からこのような話を聞いた。ある地域の総
連の社会科学者協会の会合で「無償化獲得」のことなど
が討議されたあと、おきまりのコースでの呑み会で、大
阪府知事の大阪朝高訪問時の「わが側」の対応に対する
不満が続出したという。

とりわけ関西のテレビがクローズアップしたという「金
父子の肖像画の件」で、大阪朝高が説明した「首領さま
の肖像画は儒教の国なので下すわけにはならない」との

しく言うならば韓国籍者の数は秘密事項であつた。毎年
増え続ける韓国籍生徒の実態は、私がいた時から秘密で
あつた。総連は組織をあげて「朝鮮籍死守運動」を続け
てきた。だが韓国籍の子は増えるいっぽうだった。決し
て喜ばしいことではない。だから隠しつづけたのである。
驚いたことに、東京朝高では四九%の生徒が韓国籍で
あり一部日本籍の子も通っている、よつてこの学校は「在
日同胞」の学校だとうそぶき、授察料の無償化にあやか
ろうとした。大阪朝高は六二%が韓国籍だと発表した。実
際はもっと多いはずである。一〇%〜二〇%などはさじ
加減一つでごまかすのが彼らの常套手段だから。

韓国籍の子どもの数が多いときくと、一般の人びとは、朝
鮮学校には韓国籍の子どもも入っている。だからかなり
中立的な民族学校と感じる。それをねらつて五〇%が韓
国籍だと公表した訳である。

ズバリ、いま「朝鮮籍」は、特別永住権者（戦前から
日本に住む在日とその子孫で、約四一万人）の一割しか
いない。これはいかに多くの在日同胞が「朝鮮籍」から
離れているかを物語っている。先にも述べたが、いま朝
鮮学校に在籍する子どものほとんどは総連幹部の子ども
たちと一部「朝鮮籍」の子どもたちだけである。

また、毎年「朝鮮籍」を投げ捨て韓国籍に切り替える人びとが五〇〇〇〇六〇〇〇人にのぼるといふ。このまま進むと、今後数年間に「朝鮮籍」の同胞は一〇二万になつてしまふ。すると、総連と朝鮮学校によつて立つ「場」は存在しえないのだ。

朝鮮学校は一九七〇年ごろは、日本全国に一五〇余校四万人近い生徒数であったが、いまは七〇校、生徒数八〇〇〇人台に減少した。総連は年初から鳴り物入りで「学生引人事業」募集運動」取り組んだが、今春の生徒数は八〇〇〇人を切つたとも言われている。

私は一九八〇年代のある時期、小規模な学校に勤務したことがあつた。よく同僚同士で生徒の「分類」をしたことがあるのだが、そのほとんどがすでに幹部の子弟、または古くから組織にかかわる一世同胞の孫たちであり、一般同胞は数えるほどしかいなかった。「これではほとんど学校がなくなるのではないか」と「心配」したものである。そして思ったよりも早くそのような時期が到来している。

行きづまりがどんなにひどいのか、四月二十五日には総連幹部と教育活動家の代表者会議までもち、「民族教育は総連の生命線だ」とし、「今年を民族教育の年」にしようとして「声を大きく」しているが、同胞の心から離れた共和国、反総連、反朝鮮人騒動を大々前に繰り広げたと書き、なんの反省も謝罪もない。

中井洽・拉致問題担当相が朝鮮高校への無償化に反対した。そして日本政府は、朝鮮高校に対する無償化の適用を先送りし、「専門家会議」を設置して検討することにした。四月二十五日、都内で開催された拉致被害者家族会などによる「国民大集会」で中井大臣は、「無償化による国の支出が朝鮮総連から、金正日の懐に渡る。拉致を行った国に金を出すな」とアピールした。

にわかにかう言われても多くの人びと、いや善意から「差別はよくない」と考えている人たちには、理解できない話かもしれない。

すでに暴かれた事実だが、金父子と総連の関係は、収奪者と「忠誠の献金者」の関係でもあるのだ。在日商工人と「帰国同胞」を人質にした金品の収奪、同胞が血と汗で建設した学校や会館を売り払つての莫大な献金、朝鮮信用組合（朝銀）から収奪した莫大な金を、総連中央はせつせと金正日のもとへと貢いできた。

金正日は、またもや子どもたちを人質・ダシにしてお金を、日本国民の税金をすいあげようとしているのだ。以上のように説明すると理解していただけると思う。

「教育」、民族の志向と時代に逆行する「総連の学校」は再生しようがないであろう。

総連がなりふりかまわず「暴走」するのは、彼らの自信のなさや危機感から来るものに違いない

ほんとうの民族教育を同胞に取り戻すべきだ

日本政府は、北の独裁政権の「無償化の金はどんなことがあつても獲得せよ」との指令のもと、総連が推進しているこの運動と朝鮮学校の本質を見誤つてはならないと考える。

今やこの問題は、たんなる「朝鮮高校への授業料無償化問題」でも「民族差別はよくないから平等に扱おうとかの問題」でもない。深刻な政治問題であるのだ。

決して看過してはならないことは、朝鮮高校では金正日の日本人拉致犯罪を、どのように教えているかということである。

二〇〇二年、小泉純一郎元首相が訪朝したのは、「日本の反共和国抹殺政策がうまくいかず危機にひんしたので訪ねてきたのだ」と教え。教科書には「朝日平和宣言（平壤宣言）以後、日本当局は『拉致問題』を極大化し、反

民族差別ではない。それは日本国の

当然な主権行使である

日本政府は総連の朝鮮高校にお金を与えてはならない。北の金正日や朝総連に人権を語る資格はない。彼らには「民族差別」を語る資格もない。

昨今、総連は組織をあげて適用要求の運動を展開している。生徒たちまでかりだしビラまききにおおわらわだ。いつものように日本人を取り込んだの集会や要請運動を続けている。

総連はいつも、自らの代弁者を作り上げ、その力を利用して事をはこんできた。そして、それを巧妙に行ってきた。日本の政党や一部のジャーナリスト、そしていわゆる「進歩的な人士や市民運動団体」をとりこみ、それを前面にうちだして運動を展開する。

ざっとみただけでも、朝鮮戦争はアメリカがおこした、大韓航空機墜落は韓国の自作自演だ、日本人拉致はなかつた、というあんばいである。朝鮮学校問題にあつても、一九七〇年代の「外国人学校法案」反対運動、このたびの高校授業料無償化適用「運動」など、いつも「よき理解者」「ありがたい支援者」を前面に出して「闘争」

する。

数年前から、盛んに日本人による「朝鮮学校を支援する会」や「友の会」をつくりあげてきたが、このたびはこれらが繋がり、要請運動や集会、デモを行っている。そこに朝鮮人がサクラになって参加しているという。

そして、「高校無償化」から朝鮮学校排除に反対する連絡会なるものを、朝鮮高校のある地域でいっせいに立ち上げ世論を喚起させようとしている。ここでは「朝鮮学校への差別はゆるさない」が基本スローガンだという。

私は言いたい。何が民族差別なのか！

日本政府は、さる四月三十日、三二校の外国人学校・インターナショナルスクールを無償化の対象にした。そのなかには大阪の白頭学園・建国高校や全国の韓国系の高校も含まれている。多くの日本人は在日の民族教育は、即朝鮮学校だと思っているようだが、そうではない、決して数は多くないが日本には韓国学校があり民族教育を行っている。そして、それらの学校には無償化が適用されたのである。

大阪府知事の勇氣ある、そして当然な発言どおり、金正日（ナチ）と北朝鮮国民（ドイツ国民）は違う。自国民を拉致され主権を脅かされた日本政府が自らの主権を行使することがどうして「民族差別」であろうか。

私が日を重ねるごとに感じる言葉「朝鮮民族が悪いのではない。北の不法国家が問題だ。それはドイツ民族とナチスの関係と同じだ」との言葉である。そして、朝鮮学校訪問時に「君たちが悪いのではない。大人の問題なんだ」と、子どもたちに語りかけたと言う橋下知事の言葉のなかに、政治家としての主権意識と北の人びとに対する人権的配慮に胸をあつくするのである。

朝鮮人学校を支援してくださる心ある日本人の皆さんに申し上げたい。どうか北の金正日政権と、その忠実な下僕・朝総連、朝鮮学校の本質から眼をそらさないでいただきたい。独裁者・金正日と平和を語り、人権を語り、善隣友好を築くことが出来るとお思いですか。とんでもないことです。

五月からは「専門家会議」が開かれ、朝鮮高校への適用が検討されているようだが、よもや民主党の政権が、一部総連の「運動」などに惑わされ、ほんとうの民意を見誤るようなことはないものだと思いたい。私は日本の良識を信じて疑わない。

よく考えてみると、この機会は在日同胞、そして多くの日本人に「総連教育」の実態を認識してもらい、ほんとうの民族教育を構築するよき契機なのかもしれない。

二〇一〇年六月二十五日

朝鮮高校の現代史教科書は何を書いているのか

現代朝鮮史家・ノンフィクション作家 萩原 遼

朝鮮高校の現代史の教科書は「現代朝鮮歴史」の表題で一から三巻までである。各学年ごとに一冊ずつ学ぶという。一年生用は二二二頁。二年生用は一五八頁。三年生用は一六二頁。今回全巻を翻訳・刊行したので、ざっと目を通していただければ、おおよそ何を書いているかはわかっていただければよい。

徹底した個人崇拜

一、二、三巻を通じてまず目につくのは、金日成、金正日に対する徹底した個人崇拜である。ほとんどの頁に金日成と金正日が登場する。

三年生用を見ると、金日成・金正日父子の写真掲載が二三四回。三頁半に一回の割で親子の写真が出てくる。そして金日成への言及が六七回（二頁半に一回）。金正日は八六回（二頁足らずに一回の割り）。これでは歴史ではなく金親子の家系史を学んでいるといっても過言ではない。以下一巻から三巻まで特徴的なことのみ紹介する。

■一年生用Ⅱ朝鮮戦争は

アメリカと韓国による北朝鮮侵略戦争

「米帝国主義のそののかしのもとに李承晩は一九五〇年六月二十三日から三八度線の共和国地域にたいする集中的な砲撃をおこない、六月二十五日には全面戦争に